



みんなで考えよう！！地域づくりのこと・地域福祉のこと

第3次七二会地区地域福祉活動計画
⑥福祉大会
(地域ネットワーク会議同日開催)

《 七二会地区福祉大会 & 地域ネットワーク会議 》

はじめに地域福祉推進委員会石坂副委員長の開会の言葉で始まり、第3次地域福祉活動計画の説明がなされ、その後ご近所福祉クリエイターの酒井保先生に我々の暮らしぶりの中に含む、地域のチカラについて、ユーモアを交えてご講演いただきました。その後は付箋を用いてグループワーク。イベント的な地域活動の他に、七二会には名もない日常的なつながりが、沢山、あることを確認し合いました。『人々のつながりは万能！！つながりがあれば、見守りだって出来てしまう！社会性を生み、健康長寿にもつながる！今ある日常をこわさぬよう、大切に地域づくりに生かしていきましょう！』とヒントを頂きました。



ご近所福祉クリエイター
酒井保 先生

終了後のアンケートでは、「身近な日常の中には沢山のつながりがあることに気づけた。また健康の秘訣はつながりであることも知った。」「ボランティアはハードルが高いが、一人暮らしの方の声掛けや、おすそ分けなら出来そう。」等々、寄せられました。



基調講演...酒井保先生の話術に惹きこまれて、あっという間の2時間半。



グループワーク...①みんなが知っている「地域活動」を出し合おう！②身近にある名もない活動（おすそ分け、イベントではないお茶のみ、立ち話等々）を探そう！



ちょっぴり自慢大会...「サロンで皆で車に乗り合わせて七二会巡りをして喜んでもらえました！」

～ 七二会地区福祉大会 & 地域ネットワーク会議に参加して～

10月27日(金)七二会支所会議室にて、地域包括支援センター安茂里との共催、長野県社会福祉協議会のご協力で上記が開催され、七二会支所長、七二会公民館長、七二会地区住自協役員、地域福祉推進委員、サロン代表者の参加がありました。ご講演いただいた講師の酒井保さんは1961年広島生まれ。知的障がい者施設職員、市町村社会福祉協議会職員、認知症グループホーム・小規模多機能施設長を経て、2014年8月に「ご近所福祉クリエイション」を創設。広島と仙台を拠点に講演、執筆活動を行っている方とのことです。

印象に残っているお話としては地域で実施している「高齢者ふれあい会」「お茶のみサロン」「ふれあいの場作り」「弁当配食」等があるが、身近なところでごく自然に実施している名もない活動こそが重要だと話されていました。たとえば、作り物を食べませんかと持って行くこと、これは弁当配食サービスと言わないが、これが重要だと言う。

地域草刈りの一休みでお茶と会話、これをお茶のみサロンとは言わない。

このような観点で少し前の地域の習わしなどを見てみるとサービスを提供する側がいなくとも地域の絆、助け合い、交流の場などが普通にあったのだと思いました。

見方を変えて見ることに気づかされた講演でした。

計画された皆様お疲れ様でした。

(寄稿：ご参加の区長様より)



9月7日（木） 椽の木サロン

～坪根公民館にて～

初開催ということで小池区長さんのご挨拶から始まりました。その後、地域福祉ワーカーによる第3次地域福祉活動計画の説明、西部保健センター中條保健師さんより認知障害の予防についての健康講座がありました。予防には認知症の原因となるアミロイドβを減らす生活習慣が大切と学びました。その後、小学生の養蚕学習のVTRを見て、「昔は子供の頃から散々手伝わされたものだ！」等々、昔話に花が咲きました。



9月21日（木） 橋詰お茶のみ会

～上橋詰公民館にて～



朝8時からのゲートボールを終えた皆さんが清々しい顔をして、着席。始めに、地域福祉ワーカーより第3次地域福祉活動計画の説明があり橋詰お茶のみ会も計画の中の一部であること、七二会が元気であり続けるには、サロンなどに出て人々と繋がって、皆さんがいつまでもお元気でいることが大切と学びました。その後は健康福祉推進員さんが研修で習得したレクリエーションを披露！味のある進行ぶりに大笑いする一幕もありました。

2023年「みんなに見せたい七二会の良いところ自慢写真大会」

10月20日、七二会良いところ自慢写真大会の審査会が開かれ、応募総数85点の中から9点の写真が入選しました。その中から「ユーモア賞」と「自慢だね賞」をご紹介します。応募作品は、七二会支所ロビーに展示されていますので、是非ご覧ください。



・自慢だね賞：オレンジに染まる空と雲海



ユーモア賞：今年の夢と希望がこの手の中に

たくさんのご応募、誠にありがとうございました。七二会の魅力や美しい風景を写真で伝え、地域の魅力を引き立てるこの大会の目的を推進してまいります。

編集のつづき

2024年版年賀ハガキの発行枚数は1,440,000,000枚だという話だ（これをすぐに「じゅうよんおくよんせん・・・」と読めた人はすごい!）。

さて、この数が多いか？少ないか？についての判断は、みなさんに任せるとして、年賀状離れが止まらないらしい、昨年より2億枚少ないという。

ピークの2004年には44.6億枚だから、20年で3分の1に減ったことになる。それだけ社会が大きく変わっているんだなあ、と思い知らされる。

いよいよ今年も、残り1カ月となった。みなさま、佳いお年を。

